

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の核持ち込みに関する 「密約」に係る調査の関連文書No.1

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): 核持ち込み問題, 東郷次官, ホドソン米国大使 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43860



マウラーカーは内閣事件

三三九八 岩保長

九月のマウラーカーは内閣事件に對し、偶々船出様に向來せる。

米保長は内閣事件の機会をもつて、米保長と西原を訪ねる。

一 舟山士屋のタレスにてとの会談に就くは、各事件は、アリ

ゼンテクション「特に重視する事と異なる。先づ米保長の

問題には、政治修政の進行を要すがゆきよく連邦議院で

或件は、政治修政の進行を要すがゆきよく連邦議院で

在外公館

松井

「第二次世界大戦の軍事的衛生と醫化した。日本はソ連

中共と云ふ一大共産主義陣営で、獨力では其の運営を圖る

得ない。日本政府は日本共産主義陣営を其の基準政

策としている。如く現行の保健衛生の問題を抱え持つて居り、

その間に種々の混迷の種々な問題を抱え、保健衛生の問題は日本政府

加盟の御力の高め手の方を、保健衛生の問題は日本政府

着手する。依て防衛の問題が日本政府の日本政府を

在外公館

dependable and durable designs. 今後よりは、外國に輸出する際に、其の製品が

多くなることを考慮して、その製造工程を、日本本邦に輸出する際に、其の製品が

あり、即ち、河井源一郎は、國難を免る事なく、日本本邦に輸出する際に、其の製品が

範圍で、即ち、河井源一郎は、國難を免る事なく、日本本邦に輸出する際に、其の製品が

此年、子会社化され、相馬川彌儀を抜くこととならうが、一家、斯の間

議は、やうやく、と、恩子、斯の間、色、起え、初生、即ち、即ち、

今年、此方子、即ち、國難を免る事なく、日本本邦に輸出する際に、其の製品が

と云ふ連絡のあ、天色、白、紅、青、此種は、フリセント、レジンか

適切である。

三、案保長ち、白赤、青、藍、と、紙、筋、セ、ラ、相、互、接、合、等、と、云ふ、は、士

あり、米比型あり、又其の形、も、あ、得、べし、勿論、相、互、接、合、等、と、云ふ、こと

と、これは、即ち、白、赤、青、藍、紙、筋、セ、ラ、相、互、接、合、等、と、云ふ、は、士

次、案、例、は、米比型の如く、極、重、金、成、同、し、は、士

たるに付因難^トと思ひれる。以テハ向^カ士^ムの見解は如何と
向^カ在^リ也。士^ムは、元々^ノ其^ノ信^ルを成^ス。但^シ是^ノは^ア即^ハ
之^ヲ自家^ノ固^ニ得^ル。士^ムは、元々^ノ其^ノ信^ルを成^ス。但^シ是^ノは^ア即^ハ
日^本に^ア無^レ。且^テアメ^リカ^ノメ^トを求^メ。為^メては^アなく、自^身は^ア極^度に^ア威^ミ
の目^立つ^ク。シテ左^ノ右^ノ等^ノ事^件には^ア、今^日の^ア種^レ々^アレス入^ル
の目^立つ^ク。日^本に^ア意^外に^ア底^ニ附^セざる所^ニ居^ル。猶^ヘ其^ノ信^ルと云^ふ考^フ方
で進^ムと云^ふ方向^ヲ破^ル。其^ノよ^リ左^ノ右^ノを更^ル考^フ。先^シ見^ル

總計12年で四百三十五点、とす。

在日

三、士官より日本側には米軍の日本地域外使用 及び核兵器持入問題
付文理を承りと御了りてあるが Optimum の御了りは何かと

値向か西云々、半保長ち、前席主とは、1) 在日米軍の日本外移
部に於てはセテモ限り協議するなど、(2) 在日施設を以て其若どする
又云は日本側の事並同意を要するなど、又将者に於ては核
兵云持込は日本政府の事が同意を要するなど、であると答

在外公館

右口述、士官はよし解るが、將行上の権利を制限すると云ふこと
又云は議会筋からも物語り付くし、又勿論予備省あるとはよく
云ふはナリば、なにこは御承知通りである。日本側の Optimum
進行が止るとすとも極力希望はござる様努力一氣一とすべし、併し
米軍長より速に核兵器持入問題に付、並びにあきら解を以てする
理由を薄紙譯して聞せられ、士官は協議するなどと云ふと
尋ねゆる。半保長より、協議12回し日半間一

在外公館

解取の相違あり。昨日の終儀の禮とす。得る事ある同意を旨

書とすと定めた。士はすり更に若く右の解取は未開がナヤ
レンジレヌとすれば、協議すとて解か無くはアリ。アリかと
向うれを、半傳長より、されば、無きに害段價ると云ふ。

四、士はより今度の会談に關し、「ミニケを出す御事」かとの質問がナラ
ナラシ、半傳長より、妻は妻婦さうで考へて、妻が考へた所である。
私見を申せば、ミニケを出すとせば、核兵を持て問題に關し

前田のめまハラタテカ入ニシカシキアリ。若し之ガセマス。ナラ
亭子コミニケ白体を書ケテ、カシキト思ふ。蓋しコミニケレモ
保障問題が何事かの形にて。及ぶれば、皆の被否合意の上、核
兵共同監査を行いたかとの値向あるべく、八〇の事では、今後、歸れど、カムル
と云ふ間に下露されることは甚く、米開カ括弧一カ字ニシテ書ケタが、士は
首肯した。

五、沖縄内訳は、まことに、六千萬、先般の御内訳は、沖縄内訳は、沖
人八千方の内訳に取て九千方の支那人の内訳は、かくして、支那人七千三
吉田内訳は、施政扶直選を以てす。ものに非ずも、沖縄人の福祉
改善の為、日本政府の努力する所事あり又、努力して、これを干すの事
もある。と云ふ連旨でアリセドト、在りからよ、と思ふと、さばくので、采
保長矣。土官十九様の御子を、あざと承知すと、也、一也。
六、今後議題、十二之件、大抵は、支那博覧會に付、特に、長居す。

聞き書きトナリヤとア値向カアミタニ。半傳ナリ。私見を申せば
大東博多勢は、主に保津御内閣のフレードにて特にお向
しまき事あつたとは思はず。たゞ大臣が、レバ歴史的記述
御尋ねすことはある。し、と並べ置いた。

セガリ方ア付、米保ナリ。大臣御本事おは程々御内閣でアラ
事務一あら。然ア且該御内閣をもすと云ふ用意は、大臣より
御内閣は、日本國とては、一九三四年、内手の定め、更に一回る事を上

おまえと西子のをせりふ、七は右口に手をあてて

重高と横濱と並んでゐる。

10. お預金問題も決算は新開拓本ほ大蔵省は横山大臣に
ワシントンで持出せられ得要急いで返す所。是れ imminent で
まきがきんはなはでて國子が是非右様なことはなしに願ひし。今
迄は諸方よりは正節市は P.D.T の取扱い negotiation やすく
やすし。又メキシコも手こわしがある、従事たる工臣は當時朝鮮
長崎にて自らの身にまづて奉年収進力の減額の事例は平成
承知の事である。又上角一家は一般方式の車を購入を希望しと
在 外 公 館